

大型提示装置と ICT 端末を活用し、 個別最適な学びや協働的な学びを実現する学習

第1学年

量の変化と比例・反比例

こんな子どもたちの姿が生まれました！

- 問題提示場面で、事象を動的に理解することができました。
- 必要に応じて、「ヒント置場」から学習のヒントを得ようとする姿がありました。
- 一覧で表示された仲間の考え方と自分の考え方を比較しながら考察することができました。

大型提示装置とタブレット端末による効果

導入で問題場面を動的に提示し、抜く水の量と空になるまでの時間の関係が反比例になりそうなことを学級全体で確認する。

- ・問題場面を動的に大型提示装置に提示するとともに、表やグラフの変化の様子も併せて提示することで、事象が反比例の関係にあることに気付けるようにする。



教師の指導のポイント

- 大型提示装置だけで示すのではなく、生徒のICT端末上にも示すことで、変化の様子を手元で確認しながら場面を把握できるようにする。

協働学習支援ツールの活用による効果

協働学習支援ツール内の共有フォルダにヒントカードを用意し、必要に応じて利用できるようにする。

- ・ヒントカードを事前に準備し、支援ツールの「資料置場」に保存しておく。
- ・ヒントカードはあくまで補助的な資料であり、全ての生徒が利用するものではないことを日常的に指導しておく。

一覧表示機能を用いて、自分と仲間の考えを比較したり、拡大提示した考えについて説明し合ったりする。

- ・大型提示装置だけでなく ICT 端末上でも一覧表示できるように設定し、ICT 端末上で仲間の考えの共通点・相違点に着目させ、どの座標に着目しても解決できることに気付けるようにする。

プレゼンテーションソフトを活用して、評価問題ドリルを作成し、生徒が自分のペースで学習を進められるようにする。

- ・作成した「評価問題ドリル」を協働学習支援ツールで配布して取り組む。
- ・ドリルは1問ずつ提示し、正解はボタンを押さないと表示されない構成にすることで、生徒が自分のペースで取り組むことができるようにする。

教師の指導のポイント

- 事前に作成したヒントカードは、段階的に提示し、必要に応じて使えるように配慮する。
- 学級全員の考え方を一覧表示した上で、「どの考えが正しいですか？」などと問い返し、どの座標をもとにして式を求めても、同じ結果になることを再確認する。

